

るは労働組合運動の進化必然の過程である。茲に論究せんと欲するクロード・ショップは労働組合が其團結権を完全に實現せんと欲する上の一段であること云つて差支へない。一體クロード・ショップの意味は終始一貫してをらないもので種々なる變遷をしてゐる。先づ此の名辭が最初使用せられたる頃は労働組合が其の主張する労働條件を容れない工場には所屬労働組合員をして該工場に就業する事を禁ずる事を意味したものである。反之労働組合員が當然就業する事が許されてある工場をオープン・ショップと稱してをつた。然るに千八百九十年頃から此意味と全く別の意義に使用せられるに至つて、遂に現在に及んでをる。今日云ふ所謂クロード・ショップなるものは工場主が労働組合に對して自己の工場に於ては労働組合加入者以外のものは使用せざる事を宣明實行する状態を稱するのである。換言すれば工場主が労働者の團結権を認容し、其集合契約を尊重して労働組合員以外のものを使用せざる事を明言實施するもので、要するに其の工場を非労働組合員に閉鎖する事である。之れに反して工場主が其の工場に使用する労働者に對しても、又新たに雇入れるものに向つても労働組合員たること否に係らず自由意思で決定し、形式上労働組合員並びに非労働組合員に何等差別的待遇をなさざるものをオープン・ショップと稱する。更に工場主が労働組合に對して反感を有し、其の集合契約を尊重しないばかりでなく、其團結権をも妨害せんとして自己の工場にて使用する労働組合員を解雇せんと努力するのみでなく、労働組合員の雇入れを極力